

引き揚げに2時間。選別に4時間 「やってみて初めて知る地場産業カキ養殖の大変さと大切さ。 そしてカキの美味しさ!」

「総合的な学習の時間」で、春から冬まで1年かけて、地元の基幹産業カキの養殖を丸ごと体験している備前市立日生中学校1年生。「地域のことをちゃんとわかる子に」「地域のことをちゃんと話せる子に」、学校の先生や漁協の指導者の思いを受けて、生徒たちは「地元の海を大事にしなければ」というところまで考えるようになる。

備前市立日生中学校

取組主体

- 名称：備前市立日生中学校
- 担当窓口
担当課(者)：森岡教頭
住所：岡山県備前市日生町日生241-14
電話：0869-72-1365 FAX：0869-72-1366
E-mail：bzhinase.jhs@city.bizen.lg.jp
- 団体等の属性：学校
- 構成員数：全校生徒180名 教職員23名
- コーディネーター等：なし
- 活動内容を紹介するHPアドレス：備前市立日生中学校
<http://www.city.bizen.okayama.jp/bizen/school/hinase-jhs/>
- 連携している団体等の有無：あり
属性：農林漁業に関する団体
内訳：日生町漁業協同組合

取組地域及び地域の特徴

取組地域：岡山県備前市日生町

地域の特徴：

岡山県の東南端に位置する備前市日生町は、山地が海にせまり平地が少ない本土と瀬戸内海に浮かぶ大小13の日生諸島からなっている。江戸時代から瀬戸内の漁港として漁業と海運業で栄え、町を歩くと潮の香りがいっぱい漂ってくる。

多くの町民が漁業に関する仕事に携わっており、特にカキの養殖が盛んで、日生の海には多くのカキいかだが浮かんでいる。港には豊富な魚介類が毎日水揚げされており、学校の近くの、日生町漁協の市場“五味の市”では、とれたての新鮮な魚が漁師のおかみさんの手で威勢よく売られている。

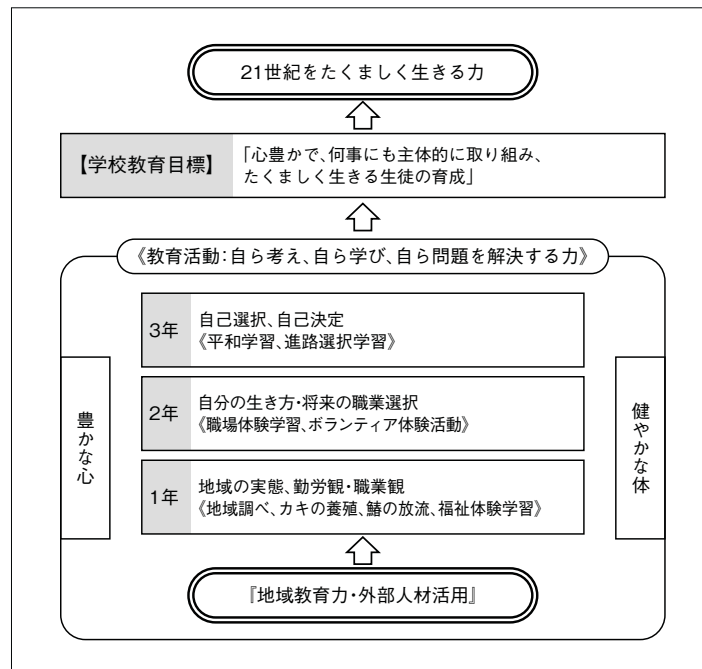
取組内容

(1)目的(目標)

カキを育ててから出荷するまで1年間をかけて取り組む「カキの養殖体験」の目的は次の3つ。

- ①総合的な学習の時間の“地域を知ること”を目的に、漁業の体験活動を通じて、地域の基幹産業の歴史や文化、実態を学ぶこと。
- ②カキの種付けから観察・収穫・選別という一連の作業を体験することで、働くことの大変さや大切さを学び、さらには地域や食に感謝する心を培うこと。
- ③地元漁協の方をはじめ、地域の方の指導や助言を得ることにより、地域の方との交流の場とし、郷土を愛する心を育てること。

「総合的な学習の時間」の全体計画



(2) 取組開始時期・経緯

2001年、地元漁協の方から「空いかだを使って、カキの養殖体験に取り組んでみないか」と声をかけて頂いたのがきっかけとなった。それから10年、今では1年生60人が「総合的な学習の時間」の授業で「カキの養殖体験」に取り組んでいる。

(3) 対象作物

魚介類(カキ)

選定理由: 地区の基幹産業は漁業で、なかでもカキは地元の特産品として有名であるため。

(4) 具体的な取組内容

地元漁協や保護者等の支援を受け、「総合的な学習の時間」で一連の「カキの養殖体験」を実施。



学校専用のカキいかだ

① 「講話(事前説明)」

5月: 漁協の方から、カキの養殖および漁業全般についての講話(事前説明)を受ける。

- ・ 日生の近海における環境について。
- ・ 種付けから収穫までの一連の作業について。
- ・ 鱒の稚魚の成長について。

② 「種付け作業」

5月：カキの赤ちゃんが付いているホタテの貝殻を、長さ約2メートルのロープに4個ずつくり付ける。生徒自ら分担し、学校専用のカキいかだにロープを吊るして海の中に入れる(約800本)。

③ 「成長観察」

10月：カキの成長の過程を観察する。雨・風・波に耐えたカキは、収穫時には1本のロープに、20から30個のカキの塊を付け、小さいカキは、波・風等によりふるい落とされていくことなどを知る。

また、環境学習として「廃いかだを利用した竹炭づくり」にも取り組んでおり、カキの収穫の日の試食(バーベキュー)等で使用する。

④ 「収穫」

2月。1日かけてカキの収穫から選別・洗浄・箱詰め・発送までの作業を行なう。

収穫は沖のいかだの上で男子生徒全員で行なう。それぞれのロープには、最初にくくり付けていたホタテの貝殻が見えなくなるほど、カキやいろいろな生きものがびっしりと付着して重くなっている。それを1本1本持ち上げるのがかなりの重労働で、800本のうち200本を生徒の手で引き上げ、収穫の喜びと仕事の厳しさを知る。

⑤ 選別及び箱詰め作業

水揚げしたカキを選別場に運ぶ。保護者の協力も得ながら、2つ3つ重なったカキを専用のへらを使い1つ1つ丁寧に選別する。カキの周りに付着した不要な海中生物を取り除く。選別が終了したら海水で洗浄し、箱詰め作業。箱詰めしたカキは、各生徒の親戚・知人等に発送する。

⑥ 試食(生産者、保護者20人程)

作業の合間の昼食では、収穫したカキを試食(バーベキュー)する。

(5)年間スケジュール(平成21年度)

5月	地元漁協の講話、カキの種付け学習
6月	鱒の稚魚の放流体験
10月	カキの観察
12月	地域調べ学習などの発表会
2月	カキの収穫・選別・試食

(6)参加者数・属性の実績及び推移

日生中学校第1学年(平成22年度56名、平成21年度57名)およびその保護者。

【指導者】漁協1~2名、カキを養殖している保護者2~4名。

【漁協】作業指導、講話、いかだの管理、作業施設・物品の提供など。

(7)経費

年間予算：特色ある学校づくり予算(教育委員会) 総予算額14万円

①カキ観察時の船借上げ代、作業指導者の船の燃料代5万円

②カキの種代3万2000円

③いかだの作成費(分割払い)5万8000円



カキの赤ちゃんが付いた貝殻をくり付けます



ほら、上手にできたでしょ

課題及び対処方法(ポイント・工夫)等

●課題

- ①地元漁業協同組合にいつまで支援を継続して頂けるか。
- ②「総合的な学習の時間」でのカキの養殖体験の位置づけ。学校側の指導体制づくり。
- ③特色ある学校づくりの予算等の減少。

●安全管理

- ①いかだでの体験時にはライフジャケットを着用。
- ②危険を伴う作業は、分業し少人数で対応する（海と陸の作業を分担）。
- ③カキの選別や箱詰め作業時の衛生管理。



カキの種付け作業を教える漁協の先生

これまでの成果

- ①カキの養殖を通じて、生徒は生産することの厳しさ・楽しさ・喜びを学んでいます。また、試食や給食のカキ料理から、食す喜びも感じている。
- ②一連の流れを、自ら考え、学び、体験することで「食」に関する興味、関心と知識、技術を身に付けている。
- ③他者・社会・自然・環境との関わりを通じて、地域の産業に関わるさまざまな人たちの苦勞を知ることができている。
- ④活動を通じて、お互いの良さを認めたり、ともに協力したり地域の方々に感謝する気持ちを持たせることができている。

今後の構想、課題

「カキの養殖体験」では、地域の基幹産業である漁業の歴史と実態を学習し、その後継者の育成のための動機づけと、郷土を愛する心を育てたい。

また、体験だけではなく、地域性を生かした自然環境での学習として、職業観、経済観、環境への配慮を学んでほしいと考えている。

課題としては、カキの選別・箱詰め作業等では、人手が必要なことから、生徒数の減少が問題となっている（10年前の生徒数は120人であったが、今は60人）。



引っぱりあげるとカキやいろんな海中生物がビッシリ

みんなのコメント集

取組の 実践者

学校

「カキの養殖体験を通じて、生徒が地元の産業や海の環境について考える良い機会となっています。本来の目的である、勤労体験や食育、地域の方との交流だけではなく、地元の海を愛し、大事にしていこうとする態度をも養うことができたことは大きな成果です。自分たちが住んでいるところで漁業がとても大事だということ、そしてそのために海の環境がどれだけ大事かわかった、そういう声が聞こえてくるのは嬉しいことです」

指導者

漁協専務理事の天倉さん

「カキの養殖は地場産業の要です。昔は子どもも手伝ったり友だちに養殖漁家の子どもがいたり自然にカキに触れる機会があったのですが、今はそういう場もなくなりまったく知らない子が多くなってしまいました。そのように地域でできなくなったことを学校でやってもらえるというのはありがたいことです。大人になって忘年会にカキが出たりしたときにお国自慢できるようになってほしいと思いますよ」

参加者

生徒

「地元で有名なカキ、今まで食べたことなかったけど、自分たちで育てて収穫したらおいしかった」

「種付けでカキの赤ちゃんをロープにくくりつけるのは結構面白かったけど、収穫でそれを引き上げるのは本当に大変だった」

「山みたいになったカキの選別。いつまでつづくのかって思った」

「地元でカキの養殖が盛んなことは知ってはいたけど、今まであまり深く考えたことがなかった。この体験でカキ養殖の大変さと大切さがよくわかった」



水揚げしたカキの選別作業